

ID No.	120
研究課題名	臍帯血移植のグラフト生着における液性・細胞性免疫の役割に関する解析
研究代表者	高梨 美乃子 （日本赤十字社血液事業本部・副本部長）
研究組織 受入教員 研究分担者	高橋 聡 （東京大学医科学研究所・准教授） 柏瀬 貢一 （日本赤十字血液センター・検査二課長）
研究報告書	
研究開始から平成26年3月末までに合計63例の患者について133件の抗HLA抗体の有無と特異抗原の同定を行った： - 移植前に検査を行った63例のうち29例（46％）で抗HLA抗体が陽性であった。このうち、クラスⅠのみ陽性は11例、クラスⅠⅠのみ陽性は6例、クラスⅠ・ⅠⅠともに陽性は12例であった。63例のうち32例は同種移植（臍帯血移植28例、骨髄移植4例）を行った。臍帯血移植施行例の7例（22％）が抗HLA抗体陽性で対応抗原の有しない臍帯血移植を行ったが、そのうちの1例で生着不全を起こした。抗HLA抗体陰性21例では全例で臍帯血グラフトの生着が得られた。骨髄移植4例（全例、HLA一致で血縁ドナー2例、非血縁ドナー2例）ともに抗HLA抗体は陽性であったが、全例で生着を確認している。 - 移植前後で測定した結果、移植前に抗HLA抗体陰性21例であった。移植後も陰性を維持されたものは14例、陽性に転じたものは5例、転帰不明が2例であった。移植前の抗体陽性であった7例のうち、移植後に陰性となったものは1例で、6例では陽性が持続した。 本邦の臍帯血移植の8割は成人患者を対象としており、さらにその9割以上はHLA不一致の臍帯血ユニットを使用している。臍帯血移植において克服すべきもっとも重要な課題の一つである生着不全において、抗HLA抗体の占める意義についてこれまで報告してきたが（M Takanashi, et al. Blood 2010; 116: 2839）、今回の研究によってHLA不一致臍帯血移植における抗HLA抗体産生動態の検討が進めることができた。このような解析はこれまで報告例がなく、今後、更に解析症例を集積して結果をまとめることにより、移植臨床の成績向上に大きく寄与することが可能となると考えている。	